

「外国人犯罪が増えている・凶悪化してる」ってホント？



偏見(デマ)です！

警察庁の発表などを元に「外国人犯罪の増加」という報道をしているメディアがあります。あるいは凶悪犯罪、異常な犯罪が起きると「このようなことを日本人がやるとは思えない」などと言う人がいます。

日本における犯罪のうち、外国人によるものはわずか1~2%ほどにも関わらず、ある調査で「犯罪の何割が外国人によるものだと思うか」とたずねたところ、多くの人が20%と答えたそうです。

外国人による犯罪が増加したと言っても、それは外国人の数が増えたことの反映に過ぎず、微々たるものでしかありません。

見た目や文化、言葉が日本人と異なる外国人を目にして、漠然と不安に思う人もいるかもしれませんが、しかし、少し考えてみて下さい。自分自身が外国で暮らすことを想像すればわかりますが、不安なのはむしろ**異国で少数派として暮らす外国人の方なのです**。実際、犯罪被害者になっても言葉の問題などで警察に訴えることができずに泣き寝入りする外国人は少なくありません。

そして私たちが懸念しなくてはならないのは、**外国人犯罪を口実に排外主義を唱える人々の存在**です。

彼らは言います。「我々は外国人全体を排除しようというのではない。あくまで犯罪外国人を問題にしているのだ。我々をレイシスト(差別主義者)というのは誤解だ」と。もしそれが事実なら、**なぜ「犯罪」自体でなく「外国人」犯罪をことさら問題にするのでしょうか？**犯罪自体を憎むというなら、なぜ日本の犯罪の98~99%を占める「日本人による犯罪」を追求しないのでしょうか？

外国人に対して憎悪や嫌悪を抱くことを「**ゼノフォビア**」といいます。1923年の関東大震災時には「朝鮮人が井戸に毒を入れた」などのデマが発生し、戒厳令の下、軍や警察・自警団(民間人)により、数百・数千もの中国人・朝鮮人が殺されました。これは過去の歴史上の話ではなく、現在でも似たようなデマがネットを中心としたメディアを賑わせ、ゼノフォビアをあおっています。またごく最近の事件としては、佐賀県で外国人留学生が少年たちに卵を投げつけられるなどの事件が起きています。こうした事件は、氷山の一角かもしれません。

現在の日本では少子化が進む一方、来日・定住する外国人が増えています。好むか好まざるかに関係なく、私たちは様々な文化を持つ人々と共に暮らしていくことを考える必要があります。**外国人など、マイノリティ(少数派/非主流派)にとって暮らしやすい社会は必然的にマジョリティ(多数派/主流派)にとっても暮らしやすい社会です。**

「外国人犯罪」という言葉でゼノフォビアや排外主義をあおったり、それにあおられたりする前に、「**誰にとっても暮らしやすい社会**」を目指しませんか？